

＜手を伸ばして＞

マルコ 3 : 1 ~ 6

イエスはまた会堂に入られた。そこに片手のなえた人がいた。彼らは、イエスが安息日にその人を直すかどうかじっと見ていた。イエスを訴えるためであった。【1, 2節】

【背景】

安息日の会堂。手に障害を持っている人をイエスキリストが癒すかどうか、じっと見つめる人たちがいた。律法学者、パリサイ人。

癒されることは喜ばしい事だからか？
いや、訴えるためだった。

＜安息日＞

ヘブライ語で「シャバット」 休むことを表す。

金曜日の日没～土曜日の日没までが安息日。

神が天地創造をされてすべてを完成なさった後、第7日に安息されたのが基にある。

しかし、時代を経るにしたがって、数々の細かい規定が付け加えられていき、イエス様の時代、形式的な安息日の守り方が人々を縛っていた。イエスはこれを痛烈に批判した。安息日には仕事をしてはならない。それは医療行為も同じだった。

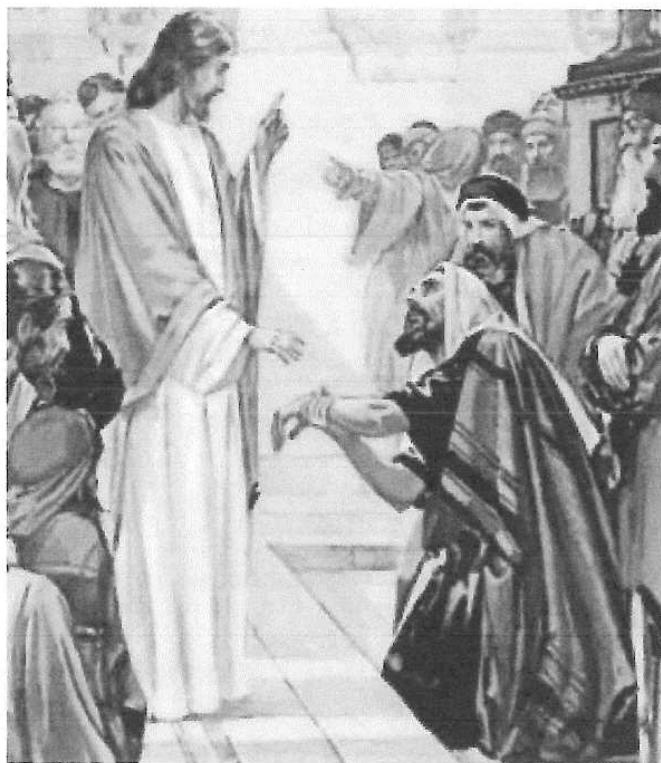
「安息日は人間のために設けられたのです。人間が安息日のために造られたものではありません。
人の子は安息日の主です。」 マルコ 2 : 27、28

◆民の指導者である宗教家たちは、自分達の教えを侵害するイエス様の振る舞いに対し
ひどく根に持ち、腹を立てていた。

イエスは手のなえたその人に「立って真ん中に出なさい」と言われた。

それから彼らに、「安息日にしてよいのは、善を行うことなのか、それとも悪を行うことなのか。

いのちを救うことなのか、それとも殺すことなのか」と言われた。彼らは黙っていた。【3、4節】



彼らは黙っていた。・・・律法を守ること。その主張にこだわって、イエス様のことばは届かず、神をも見失っていた。

- ◆神のことばが実現するという信仰に、なぜ生きることが出来なくなったのか。神を仰ぐことが、どうして妨げられているのか。律法学者達のかたくなな心を嘆き、イエス様は怒られた。

「立って真ん中に出なさい」というけれど・・・

端っこにいる人の理由。あれこれ。

目立ちたくない / 大勢の中の一人として隠れていたい etc

大勢の人前で右手が萎えている。そんな姿をさらしたくはない。もし癒しがなされなければ、ただの「さらし者」で終わってしまう。真ん中に立つためには、勇気と信仰を必要だった。

- ◆「真ん中に立つ」ここがイエスの指定された場所だった。ここでイエス様はご自身の御業をなさった。

- ◆イエス様は十字架で死なれた。もし、復活がなければただの「さらし者」で終わった。しかし イエス様は十字架で死んで終わらず、復活された。

「手を伸ばしなさい」 5節

彼の手は萎えていた。伸ばすことなどできなかった。しかし・・・原因と結果が逆転。ここにイエス様が教える信仰というものがあつた。